

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報

第7号

果樹

発行日 平成26年 9月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「http://i-agri.net」 携帯電話からは「http://i-agri.net/agri/i/」

- ◆ りんご中生種の適期収穫・すぐりもぎを徹底しましょう！！
◆ 衰弱ぎみの樹にはお礼肥を！！

りんご

1 生育状況

(1) 果実肥大

定観測地点(表1)の果実肥大(横径)は、4~6月の干魃、8月の長雨及び日照不足などにより肥大量が鈍化しましたが、開花が早かったこともあり、概ね平年並となっています。

園地によっては少雨から長雨となる気象条件による土壌水分ストレスなどから樹の衰弱が散見されます。お礼肥の施用も検討しましょう。

(2) 果実品質

「ジョナゴールド」の果実品質は、県平均で硬度、デンプン指数(本年4.3、平年4.2)は平年並み、糖度は平年より高めの状態です(図1~2)。なお、早生品種では、最初は硬度、デンプン指数が平年並みで推移しましたが、収穫期一気に硬度、デンプン指数が低下する傾向がみられました。今後の気象によって、着色、熟度の進みが変わることがありますので、適切な管理、適期収穫を心がけましょう。

表1 りんごの果実肥大状況

(単位:mm)

Table with 16 columns: 9月11日時点の生育状況, つがる (本年, 前年, 平年, 前年比(%), 平年比(%)), ジョナゴールド (本年, 前年, 平年, 前年比(%), 平年比(%)), ふじ (本年, 前年, 平年, 前年比(%), 平年比(%)). Rows include locations like 岩手町, 盛岡市, etc.

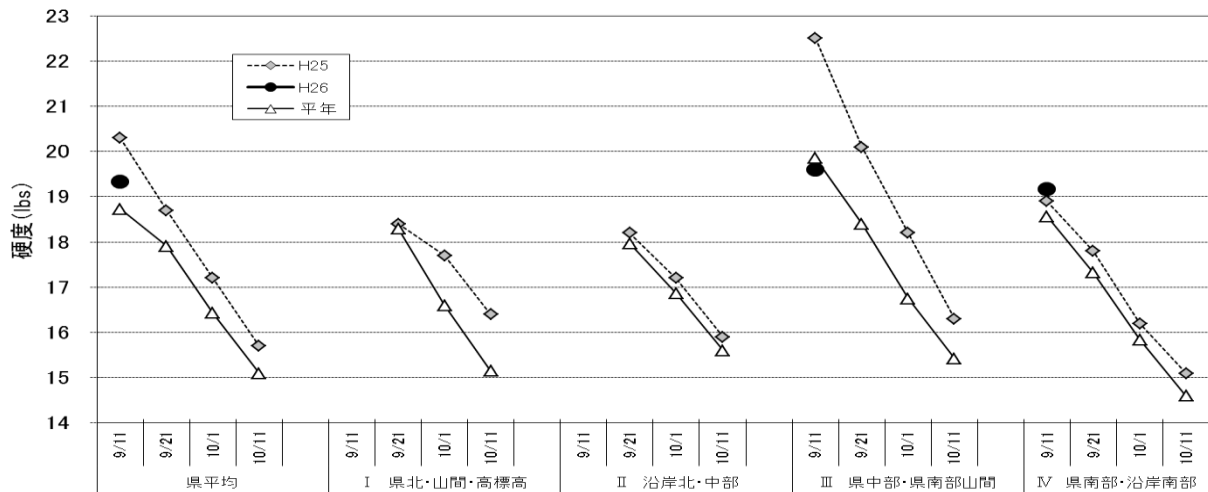


図1 ジョナの硬度の経時変化

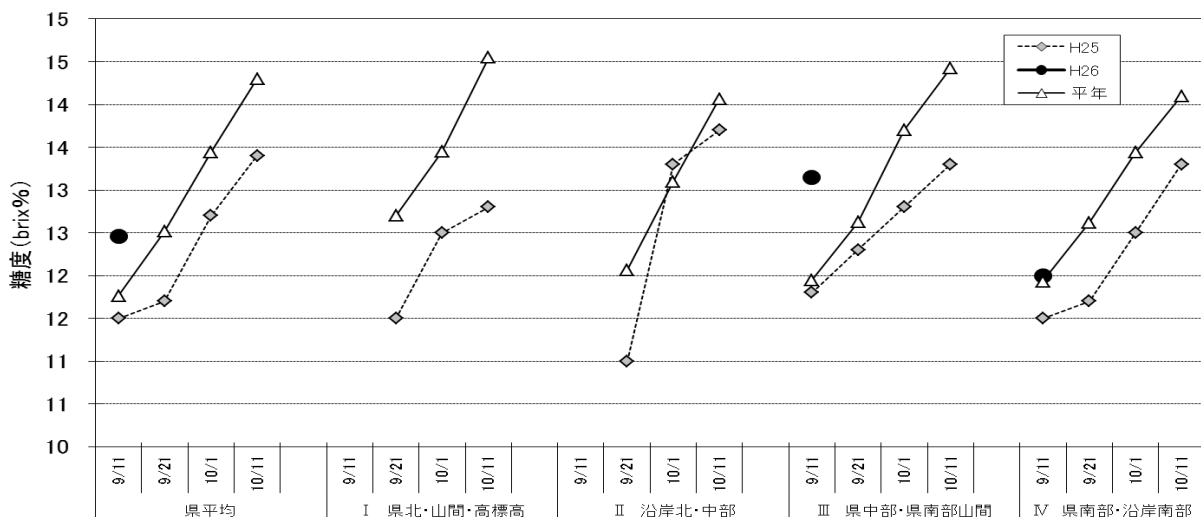


図2 ジョナの糖度の経時変化

## 2 管理作業

### (1) 「紅いわて」の収穫

ア 「紅いわて」は、県下全般に収穫期をむかえています。

イ 表2の収穫の目安を参考に、食味を確認して収穫期を判断します。

ウ デンプン指数が2以下になると、硬度が一気に下がることがあり注意が必要です。

### (2) 中生種の管理

ア 「ジョナゴールド」などの着色管理は、1回目の軽い葉摘み終了後、陽光面の着色が進んでから、葉や枝カゲをつくらないように玉回しを収穫まで2～3回行います。玉回しと同時に適度な強さに葉を摘みます。

イ りんごの着色適温は10～20℃です。気温の高い日が続くと、必要以上に葉摘みを強くしても着色は進まないため、過度の葉摘みとならないよう注意します。

ウ 「ジョナゴールド」については、着色が不揃いとなりやすいので、徹底したすぐりもぎを行い、収穫と同時に葉摘み、玉回し等着色管理を進めます。

エ 収穫が遅れると果肉の軟化、果皮の油上がりが発生して、販売上不利になりますので、適期収穫を心がけましょう(表3)。

表2 本年の「紅いわて」の収穫時期について

(基準値: 農業研究センター: 北上市)

デンプン反応指数	指数2～2.5
糖 度	13%以上

### (3) 「ふじ」の着色管理

- ア 「ふじ」は、着色期間が30～40日間と長いため、陽光面が着色してきた頃（9月下～10月上旬）と10月中～下旬の2回に分けて葉摘みを行います。1回目の葉摘みは、果実に密着する葉を摘む程度とし、2回目は適当な強さまで葉を摘み、陽光面の着色が進んできたら葉や枝カゲを残さないよう玉回しを行います。
- イ 過度の葉摘みは、葉が少なくなり果実の着色やみつ入りが劣り、翌年の花芽の充実が悪くなるなどマイナスの影響が出ますので注意してください（表4）。

表3 中生・晩生種の収穫開始期の目安

品種	満開日 起算日数	硬度 (lbs)	糖度 (%)
ジョナゴールド	145～155日	13以上	13以上
王林	160～170日	14以上	14以上
シナノゴールド	170日以上	15程度	15以上
ふじ	165～180日	14以上	14以上

表4 「ふじ」の摘葉が果実品質に及ぼす影響(青森りんご試)

処理区分	果周の 増加量 (mm)	糖度 (%)	みつの 発生 (%)	着色	翌年の開 花率(%)
全葉の摘葉	0.74	13.6	0	3	25.0
新しよ葉摘葉	3.60	14.5	31	3	58.4
果そ葉摘葉	6.85	14.9	77	4	65.1
無処理	7.40	14.9	86	4	66.6

### (4) お礼肥の施用

樹の衰弱がみられる場合には、早生・中生品種では9月下旬以降、晩生種では10月中下旬以降からそれぞれ落葉までに施肥を実施してください。施肥量は成木で多くても10a当たり窒素成分5kgを目安としてください。

## 3 気象災害対策

### (1) 台風対策

10月に入っても、まだまだ台風が多く発生する時期です。強風で倒木が発生しないよう、防風ネットの設置、支柱との結束を確認してください。また、気象情報に注意し、場合によっては台風の接近前に収穫を進めるなど、被害を最小限にできるよう対策をとってください。

### (2) 湿害対策

台風に伴う大雨や秋の長雨など、園地内が過湿となった場合、裂果や根部の障害による樹勢衰弱の要因となります。園地内に水が停滞しないよう、溝を掘るなど排水対策を実施しましょう。

次号は10月30日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は  
秋の農作業安全月間です**

**豊作を 無事故で迎える いわたの農業**

中央農業改良普及センター・地域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。